

貝塚の自然 5 葛城山

川村 甚吉（貝塚市立自然遊学館）

本市の自然を語るには「葛城山」を抜きにすることはできません。泉南地域の最高峰であり、本市域のみを流れる近木川の源でもあるからです。また、小・中学校の校歌に「葛城山」は数多く登場します。小学校では平成 22 年に開校しました東山小学校を含めて 11 校中 9 校に記述があり、中学校でも 5 校中 2 校に採用されています。従いまして、本市で生まれ、育ち、親となった方は「かつらぎ」というフレーズを歌い、親しんできたこととなります。

本市史によれば「山地は和泉山脈中の高峰葛城山・高城山を東西の頂点として北西大阪湾に傾き、ここを源とする河川はその府県境の分水嶺から一気に山地・丘陵・平地を経て海に注いでいる（「市史第一巻」より）とあります。確かに、和歌山側から葛城山頂をめざし実際に登山しますと、かなり楽に登ることができます。しかし、和泉地方側からになりますと、どの登山道でも急な登りが続きます。このことから市史の解説の通り、南北でその傾斜の違いがよくわかります。植物の分布についても「南の斜面（和歌山側）は概して草地が多いが、北側和泉地方の斜面は植林による松・杉・檜の針葉樹、その他の樹木が繁茂し」（同第一巻）と記され、分水嶺の南北で植物相も大きく違うのです。

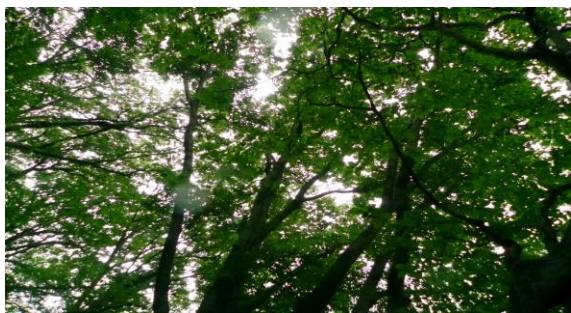


山頂

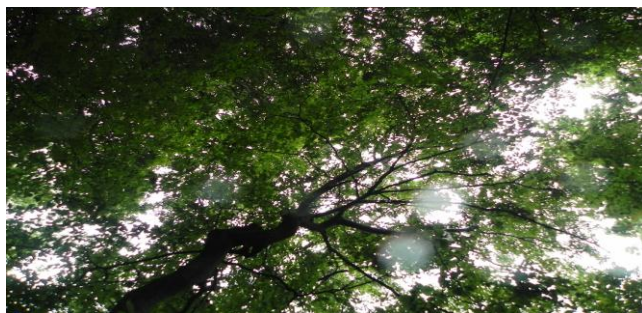


山頂より南側を望む

加えて、葛城山のブナは、1923 年 3 月に「和泉葛城山ぶな林」という名称で天然記念物の指定を受けています。それは「・・・我が国のぶな分布上低山岳としては最南端で、しかも老大木が純林をなしている・・・」（「同第三巻」）とあり、将来にわたり長く保存すべき大切なものとされています。一時期絶滅の危機もあったそうですが、ぶな林を守りたいと思う郷土愛の力で手厚く保護されたり、植樹されたりしています。

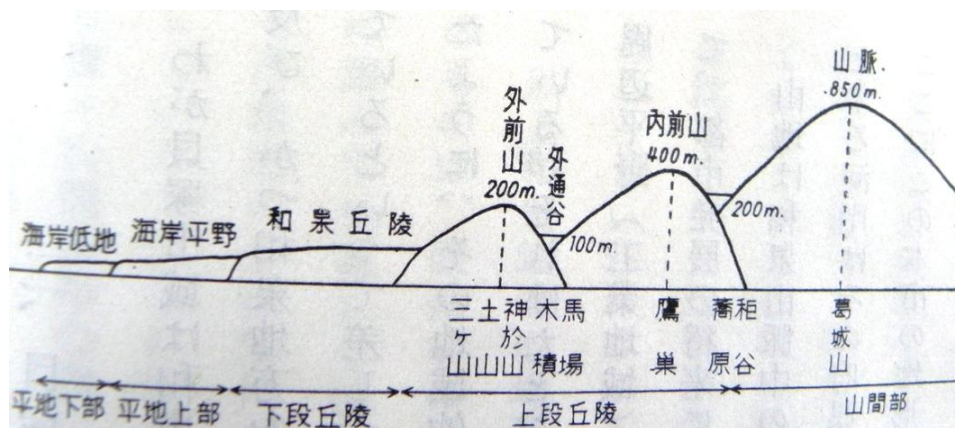


ぶな林の様子 ①



ぶな林の様子 ②

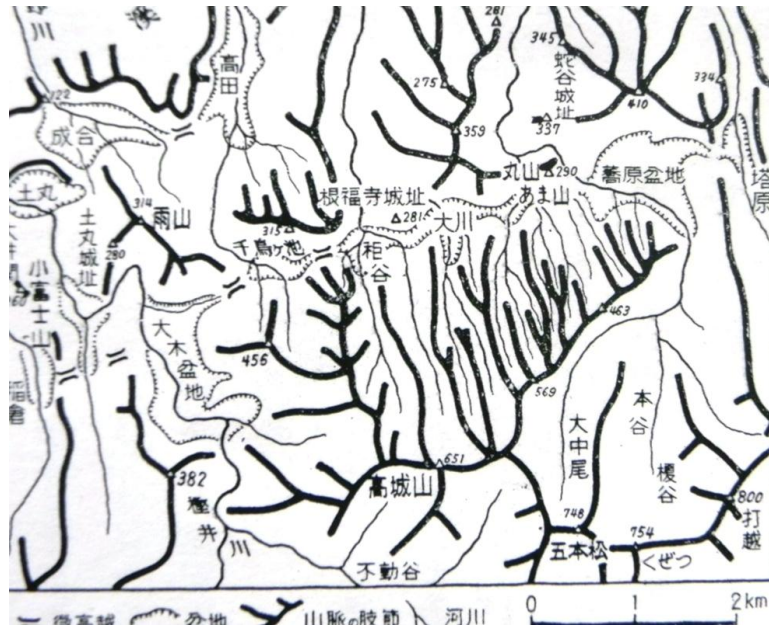
「分水嶺は、東の葛城山から西に連なる山脈の枝節で、葛城縦走路として打越（800m）・くぜつ（754m）・五本松（748m）その他 9 つの小峰とそれを連ねる鞍部からなり」と表記され、下図の地図が添付されています。この地図は平面図でありながら、本市の地形を把握するうえで極めて重要な手掛かりとなります。当館では冬に近木川源流探検という行事を実施していますが、それを企画する際も参考になります。



貝塚市地方の地形断面図



和泉地方の地質図



貝塚地方山間丘陵部の地形図

前頁の地質図にみられるように葛城山上は和泉砂岩層です。そして、その砂岩層と花崗岩層の境に化石の産地があるのも面白く感じます。

地形の特色は生物にもさまざまな影響を及ぼします。当館のホームページに「和泉葛城山」のコーナーがありそこに生物等の詳しい記載があります。ぜひ参照してください。また、昔から、観察ノートやたま網、双眼鏡をもって登山している人が多くみられることから和泉葛城山は魅力ある生物の宝庫ともいえるでしょう。

最後にこの項の締めくくりとして、雨乞いについて記載します。農耕にとって水ほど大切なものはないでしょう。水田となりますと特に必要です。しかし、自然は水の必要な夏場にあまり降ってはくれません。そこで、命にもかかわる大切な水を求めるため、雨乞い祈願は当然の発生と考えられます。本市を中心とした地域では、葛城山頂にあります「八代竜王社」、脇浜の八代竜王社（高禰神社）、王子丹生明神（南近義神社）が雨をよぶ神社として崇拝され、祈願が行われてきたようです。「近木川ものがたり」によれば歴代岸和田城主が葛城山頂の八代竜王社にお参りしたそうですから、その意気込みがうかがうことができます。